

# 「遊び」をテーマに 講演や体験型講座

静岡南部特別支援学校

静岡市駿河区の県立

静岡南部特別支援学校は23日、「学ぼう！遊ぼう！富士山の日」と題して「遊び」をテーマに講演会や体験型講座を催した。県内の特別支援学校の児童、生徒のほか、県立大短期大学の学生やボランティアの高校生らが参加した。

講演会では、同短期



病気や障害があっても楽しめる遊びを提案した学生ら＝静岡市駿河区の県立静岡南部特別支援学校

大学の松平千佳准教授が高校生を対象に、病児や障害児に寄り添い、小児医療の一員として働く専門家「ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)」の活動を紹介した。

体験ブースでは病気や障害があっても楽しめる八つの遊びが用意された。HPSを学ぶ学生6人はペットボトルを使ったキラキラグッツと、風船と粘土で作るストレスボールのコーナーを設けた。同学部2年の山崎実優さん(20)は「見て触って楽しめる『感覚遊び』なら、だれでも楽しめる」と、はしゃいだ子どもたちの反応に満足そうだった。